

受付日	月	日
受理No.	—	
選考区分	環境保全	

右の選考区分にはB.事業分野で選んだ分野を記入してください。

A. 応募団体の概要

フリガナ 団体名	ホッカイドウシゼンシケンキョウカイ 北海道自然史研究会		団体 印	ホーム ページ	有る
住所	〒004-0051 札幌市厚別区厚別中央1条7丁目1-45 山岸ビル3階 さっぽろ自然調査館内		E-mail : n-h@cho.co.jp 固定電話 : 011-892-5306 携帯電話 : ファクス : 011-892-5318		
フリガナ 代表者	ヤスダノ ブキ 保田信紀		役職	会長	
法人格	無い	活動開始	1993年 2月から		
活動地域	北海道内	会員数	129名		
応募事業 の主体	同上				

B. 事業分野 (環境保全、まちづくり、食・農実践、共生社会から1つ選び、記入してください。)

環境保全

C. 事業の名称 (40字以内で記入してください。)

北海道内の自然史研究情報の集積とネットワークづくり

D. 助成希望金額

45万円

E. 秋山財団助成実績

無い

F. 秋山財団以外の機関から受けた助成金・補助金 (過去2年間について記入してください。単位は、万円です。)

受領年度	機関名	助成内容・事業の名称	金額(万円)
	無い		

G. 収支データ (見込み金額でかまいません。単位は、万円です。)

前年度収支決算額	収入	5万円	支出	1万円
今年度収支予算額	収入	5万円	支出	1万円

H. 応募事業担当者

住所	〒004-0051 札幌市厚別区厚別中央1条7丁目1-45 山岸ビル3階 さっぽろ自然調査館内 北海道自然史研究会事務局		E-mail : n-h@cho.co.jp 固定電話 : 011-892-5306 携帯電話 : ファクス : 011-892-5318		
氏名(フリガナ)	渡辺 修 (ワタナベオサム)		役職	事務局長	

※ 項目A～Hの行数設定を変更させないでください。また、各項目はこのページに収まるように記入してください。

I. 団体の設立の目的を記入してください。

「北海道自然史研究会」は、自然史系学芸員を中心に北海道内の自然史に関するネットワークづくりのために 1993 年に立ち上げられた。北海道の自然に関心があれば誰でも参加可能で、幅広い層の共同による自然史研究の発展とその成果の普及を目指している。

学芸員の組織は他にも北海道博物館協会の学芸員部会などがあるが、自然史系に特化したものはなく、また公務員の集まりである博物館協会では活動に制約も多く、具体的な取り組みなどはほとんどなされていなかった。そのため、市井の自然史研究者も含めた幅広いネットワークをつくり、地域単位では難しい広域的な調査研究や普及活動を連携して実施したり、研究発表会を通して互いの取り組みを深化させるために結成した。

J. これまでの活動実績を記入してください。

1993年2月	設立	
1993年09月	野外研修会	上川町 層雲峡
1994年01月	第1回研究会	札幌・開拓記念館
1994年10月	第2回研究会	沼田町
1995年10月	第3回研究会	様似町
1996年05月	第4回研究会	黒松内町
1997年05月	第5回研究会	美幌町
1998年05月	第6回研究会	倶知安町
1999年10月	第7回研究会	標津・サーモンパーク
2000年04月	第8回研究会	旭川・旭川市博物館
2001年08月	第9回研究会	平取・二風谷博物館
2004年03月	臨時集会・総会 会員メーリングリスト開始	札幌・博物館センター
2004年12月	2004年度研究会	札幌・北大総合博物館
2005年10月	2005年度研究会	札幌・北大総合博物館
2006年07月	2006年度研究会	遠軽・丸瀬布昆虫生態館
2007年09月	2007年度研究会	登別・ヒグマ博物館
2010年02月	2009年度研究会 ウェブサイト準備室開設	札幌・博物館センター

K. 活動上の課題について記入してください。

会員のほとんどが有職者であり、事務局も専従のものを置いているわけではないので、活動に割ける時間に制約があり、今までは限定的な取り組みしか出来ていなかった。資金面でも会費と寄付を主体としているため、専従の事務員や事務所を持つことは難しい。

また、会員が全道各地にいるため、会議や研究大会の開催には、旅費や時間コストがかかり、集合もままならない面がある。さらに各市町村の学芸員や職員数も削減傾向にあり、各会員の積極的な活動参加も難しい状況にある。

ただ、現在はインターネットの発達により、情報の共有や発信が容易になってきている。2004年よりメーリングリストを開設し、情報交換・共有に努めてきているが、さらに今年度よりウェブサイトの開設準備を進めている。これにより、各地域では困難だった情報の集積やポータルサイト化、一般市民との接点を増やすことに重点を置く体制を整えたいと考えている。

※ 項目 I～K の行数設定を変更させないでください。また、各項目はこのページに収まるように記入してください。

L. 応募した事業の概要を説明してください。

1. 事業を行うに至った経緯

北海道内には博物館など地域の自然史を紹介する施設が多くあるが、ほとんどの施設が資金・人員不足のために、調査・研究してきた自然史情報や研究報告をデジタル化しておらず、ウェブ上にも掲載していない。これらは北海道の自然を知り保全活動や環境教育活動を行なう上で重要なものであるが、ウェブ上で検索しても見つからず活用できない状態にあり、地域の財政悪化とともに埋もれてしまう危険性がある。また、地域の自然を観察したり調査したりする環境系市民グループの活動成果にも貴重な情報があるが、それらの多くは少数の会員に配布される会誌の中のみにとどまっている。これらの情報を集積し、多くの人が利用できる形態へと転換を進めたい。

2. 事業の目標

当研究会は道内の自然史系学芸員を中心に構成されており、各施設の研究報告や地域の市民グループの情報を入手しやすい立場にある。それを生かして、自然史情報の効率的な収集を図り、それを通じて各施設・団体のネットワークの充実を図り、自然史研究のみならず、自然保護活動、環境教育に貢献することが期待できる。収集した論文や情報はデジタル化して集積し、当会のサイトから誰でも自由に検索、ダウンロードできるようにする。道内の博物館が発行する論文集や年報は、自然情報の宝庫であるにもかかわらず一般には入手が困難で、特に道外への発信はほとんどできなかったが、このサイトを設立することにより、多くの情報を保存し発信できるようになる。

3. 事業の新しさ

文献・書籍のデジタル化は民間・行政の双方とも取り組みがなされているが、その進行は必ずしも早くなく、北海道という一地域の自然環境に関する情報がそのネットワークに入るまでには多大な時間を要する恐れがある。それを本研究会の構成員の力を生かして一気に達成するとともに、それらが集積したポータルサイトをつくることで、北海道の自然環境の保全や教育・普及活動に活用しやすくなる。また、これらの論文や会誌は収益を上げることを目的としたものではないため、デジタル化に伴うデータの無料化の問題を懸念する必要性が低いことも重要である。

4. 事業の地域への波及効果

このポータルサイトが道内の自然紹介施設の新たなインターフェースになり、各施設の情報へのアクセス性を高め、地域の自然への関心を高める手がかりになる。また、サイト上での博物館友の会や市民グループどうしの交流など、新たなネットワークの構築にも寄与でき、広域的な一斉調査や観察会の実施に発展することも期待できる。

M. 応募した事業が目指す新たな公共の担い手育成について説明してください。

過去に取り組まれた調査・研究のデータベース化は、将来それに取り組もうとする市民のレベルアップの場となり、成果を発表する場を生み出すことにつながる。地域の自然環境の情報収集は、行政機関や大学等のみが担うのでは不十分で市民レベルでの取り組みが広がることが重要と考えている。

今回計画しているポータルサイトは、今後の新たな自然史研究の発表の場としても期待できる。地域の自然環境の研究は、一つ一つの発見が学術的には小さなものであったり、記録する動植物のリストが膨大で印刷して発表できる場が無いことがしばしばある。そのような場合、出版のコストが低いデジタルデータ（電子出版）で半永久的に情報として残すことができ、ウェブという多くの人が閲覧する可能性がある場として、このサイトは機能できる。地域の自然に関する情報やさまざまな取り組みを記録しようという市民の手助けとなることで、保全活動や環境教育活動を支援できると考えている。

本事業が取り組むことは、本来行政が資金と人的資源を投資して達成すべきものと考えられる。しかし実際には、行政の取り組みでは非常に非効率的で、時間がかかる上に利用者が使いにくいものができる可能性も高い。特に、複数の自治体や行政機関が関わる必要がある課題についてはその傾向が強く、本会のような第三者機関が収集と選別、利用者との対応を進めるほうがよいものと考えている。

N. 応募した事業に関する作業日程と作業内容について説明してください。

1. 研究報告・会誌情報の収集（～7月）

会員のネットワークを通じて、研究報告や市民団体の情報を収集する。

2. データベース・サイト構造の検討（～9月）

利用しやすい構造を検討、設計する。

3. ウェブ公開の許諾確認（市町村、著者）、協力市民団体のヒアリング（7～10月）

情報を目次ベースのもの、本文データがあるもの、デジタル化の必要があるものに整理し、利用許可を得る。

4. デジタルデータの変換、紙データのスキャン・データ化（9～1月）

データがあるものは変換し、紙データは専用スキャナ・ソフトを用いてデジタル化（透明テキストPDF）する。

5. ポータルサイトの構築とデータの格納、データベース化（1～2月）

作成したデータをデータベース化し、サイトから自由に閲覧・ダウンロードできるようにする。

6. データベースの紹介カードの作成（3月）

サイトとデータベースについて広報するカードを作成し、各施設・団体に配布する。

※ 項目L～Nの行数設定を変更させないでください。また各項目はこのページに収まるように記入してください。

○. 応募した事業に取り組むメンバーとそれぞれの役割分担について説明してください。

○渡辺 修 (さっぽろ自然調査館)	全体総括、サイト・データベース設計
○丹羽真一 (さっぽろ自然調査館)	研究報告・市民団体冊子収集、サイト検討
○山崎真実 (札幌市博物館活動センター)	研究報告・市民団体冊子収集、サイト検討
○持田 誠 (北大総合博物館)	研究報告・市民団体冊子収集、許諾確認
○齋藤和範 (旭川大学地域研究所)	研究報告・市民団体会誌収集、許諾確認
○川辺百樹 (上士幌町ひがし大雪博物館)	研究報告・市民団体会誌収集、許諾確認

※各地で自然の調査・紹介をしている市民団体からは、データベースに載せたい・載せられる会誌・ニュースレター等の情報を収集し、デジタルデータがあるものは提供してもらう。

P. 助成金の使途について説明してください (合計を希望金額に合わせてください。単位は円です。)

費 目	内訳 (単価・数量・人数など)	費用 (円)
デジタルデータ作成・サイト作成費	データ入力・研究報告デジタル化 (臨時アルバイト 20 日×@6,500)、サイト製作・管理の補助 (10 日×@6,500)	195,000
印刷費・発送費	収録データ一覧と使い方紹介カード印刷費 (A4 両面フルカラー、コート紙 220kg、3000 枚)、発送 30 箇所×@500	70,000
編集委員会旅費	サイト・データベース作成のための編集打ち合わせ、市民団体ヒアリング費用 (市内 4 名×3 回×@500、旭川往復 1 名×@9360×3 回上士幌往復 1 名×@13960×2 回)、宿泊費 (2 回×@7500)	77,000
物品費・消耗品費	ドキュメントスキャナー (キヤノン DR-2510C)、OCR・PDF 作成ソフト (PDF Works 作成・編集・変換 キャンペーン版)	75,000
通信費、その他の経費	消耗品費 (紙、トナー代など)	33,000
	打ち合わせ・連絡用の郵送費、会議費など	
	合 計	450,000

Q. 応募した事業の中期的な実施計画 (3~5 年間) について説明してください。

データベースを搭載したサイトは長期的に運用しなければ意味が無い。長期的に掲載し、市民 (利用者) からの要望や利用状況をモニタリングする。

収録可能な博物館等の研究報告誌は道内に 36 程度、市民団体の会誌なども 20 程度あると考えられる。本事業では体制の確立と、これらの目次レベルのデータベース化と 10~20 誌の全文デジタル化を目指す。そして電子利用の許諾を進めながら、年 10 誌程度のペースでデジタル化を進め、3~5 年で道内の基本的な自然情報が集積された状態を目指したい。そのため、今回確立されるスキャニング・データ化体制を活用して、低コストでのデータ化を進める。それと並行して、新たな論文の投稿を受けて、独自の情報・論文の集積も行ない、過去の情報を上回る情報の集積を目指したい。

※ 項目○~Qの行数設定を変更させないでください。また各項目はこのページに収まるように記入してください。